

令和三年学力検査

全日制課程 B

第一時限問題 国語

検査時間 九時十分から九時五十五分まで

「解答始め」という指示があるまで、次の注意をよく読みなさい。

注 意

- (一) 解答用紙は、この問題用紙とは別になっています。
- (二) 「解答始め」という指示で、すぐ受検番号をこの表紙と解答用紙の決められた欄に書きなさい。
- (三) 問題は(1)ページから(9)ページまであります。(9)ページの次からは白紙になっています。受検番号を記入したあと、問題の各ページを確かめ、不備のある場合は手をあげて申し出なさい。
- (四) 答えは全て解答用紙の決められた欄に書きなさい。
- (五) 印刷の文字が不鮮明なときは、手をあげて質問してもよろしい。
- (六) 「解答やめ」という指示で、書くことをやめ、解答用紙と問題用紙を別々にして机の上に置きなさい。

受検番号	第	番
------	---	---

次の文章を読んで、あとの(一)から(六)までの問いに答えなさい。

1 ①

著作権保護のため非表示

(平山郁夫『絵と心』による)

2

4

3

著作権保護のため非表示

(平山郁夫『絵と心』による)

(注)

- ①⑥は段落符号である。
- 点景Ⅱ風景画などで、趣を出すために風景の中に取り入れられた人物や動物など。
- 琳派Ⅱ江戸時代の絵画の一流派。
- 顔料Ⅱ水に溶けない性質の絵の具。土や貝殻を粉碎したものなどがある。
- 岩絵の具Ⅱ顔料の一つ。鉱物から作る絵の具。
- 南画Ⅱ中国山水画の一つで、日本では江戸時代中期頃からその影響を受けて描かれるようになったもの。
- 印象派Ⅱ十九世紀後半にフランスで起こった芸術の流派。
- キュービズムⅡ二十世紀初めにフランスで起こった芸術運動。
- 希求Ⅱ願いを求めること。
- 不即不離Ⅱ二つのものが、つきもせず離れもしない関係を保つこと。

(平山郁夫『絵と心』による)

(一) ①

空間の捉え方 について、ヨーロッパの絵画と東洋画および日本画の違いを説明したものとして最も適当なものを、次のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

- ア ヨーロッパの絵画がそこにあるものを見えるとおりに描くのに対し、東洋画や日本画には空間を埋め尽くすという考え方がない。
- イ ヨーロッパの絵画が風景を象徴的に描くのに対し、東洋画や日本画には空間を可視的なものによって処理するという発想がない。
- ウ ヨーロッパの絵画が目に見えるものを全てを描くのに対し、東洋画や日本画には背景は空白のままがよいという美意識がある。
- エ ヨーロッパの絵画が遠くのものも細部まで描くのに対し、東洋画や日本画には必要のないものは描かないという合理的な面がある。

3 1/2

(六)

次の文章は、ある生徒が本文の内容に触発され、自分で調べたことをまとめたものであるが、文の順序を入れ替えてある。筋道が通る文章とするためにアからオまでを並べ替えるとき、二番目と四番目にくるものをそれぞれ選び、そのかな符号を書きなさい。

ア 具体的には、米をすりつぶして水を混ぜただけの真っ白な絵の具と竹を削ったペンを用いて、赤土を塗った壁に描きます。

素朴でのびのびとした画風が特徴だと言われています。

イ 一九七〇年代から、ワルリー画は、インド政府の勧めによって紙にも描かれるようになりました。それによって持ち運びができるようになり、美術館での展示が可能になりました。

ウ ワルリー画は、もともとはインドの先住民族のワルリー族によつて描かれた壁画です。神話や物語などを題材に、線描や三角形、円などの単純な形を組み合わせて描くのですが、用いる材料は、彼らの身近にあるものばかりです。

エ ワルリー画の魅力を世界の人々が身近に感じられるのはよいことだと思いますが、材料が壁から紙に変わることによって、ワルリー族の人々の文化観や価値観に何か影響があったのではないかと想像します。この点については、もう少し調べてみたいと思います。

オ この文章を読んで、私は絵と材料の關係に興味をもちました。世界にはほかにどのような例があるか調べてみたところ、ワルリー画という絵があることを知りました。

二 一の(一)、(二)の問いに答えなさい。

(一) 次の①、②の文中の傍線部について、漢字はその読みをひらがなで書き、カタカナは漢字で書きなさい。

① 僕たちは、最後の大会で悲願の優勝を遂げた。

② 春の陽気に包まれながら、野山をサンサクする。

(二) 次の文中の「③」にあてはまる最も適当なことを、あとのアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

すばらしい演奏を聴き、感動の余韻に「③」。

ア 沈む イ 浸る ウ 注ぐ エ 浮かぶ

(注)

- ①⑤は段落符号である。
- 沓脱^{くわだく}Ⅱ玄関や縁側などの上がり口にある、はきものを脱ぐところ。
- ステテコⅡ膝の下まであるゆつたりとした男性用の下着。
- ラフル^{らふる}Ⅱだけたさま。
- 鮭^{さけ}とばⅡ棒状に切った鮭の身を塩水につけ、乾燥させた食品。
- リスペクトⅡ尊敬する気持ち。
- 恰幅^{かっぴ}Ⅱ体つき。
- ペーストⅡ食材をすりつぶし、柔らかく滑らかにした状態のもの。
- ミヨウパンⅡ食品添加物。食品の形状保持などに使用される。
- シミュレーションⅡここでは、実際の場面を想像して練習すること。
- 魚醬^{ぎょじょう}Ⅱ魚介類を塩漬けにして発酵・熟成させて出てくる汁をこして作った調味料。
- 茶々Ⅱ人の話の途中で割り込んで言う冗談。
- 恵比須^{えびす}Ⅱ七福神の一つ。にこにこした顔つきのことをえびす顔という。

(一) ①

- 思いがけなくも破顔したとあるが、その説明として最も適当なものを、次のアからエまでのの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。
- ア 叔父の評価が高いことがわかってうれしく思った有人だったが、予想外に誠の父は複雑な表情をしたということ
- イ 叔父のおかげで自分が受け入れられたことに胸をなで下ろした有人だったが、思いのほか誠の父が厳しい表情をしたということ
- ウ この島では叔父と比較されているのかと不安を感じた有人だったが、意外にも誠の父はにこやかに笑ったということ
- エ 島での叔父に対する評価が気になっていた有人だったが、予想に反して誠の父がおだやかに笑ったということ

(二) ②

- 誠の父の人物像の説明として最も適当なものを、次のアからエまでのの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。
- ア 漁師という仕事に携わっているという誇りから、他人にも妥協を許さない人物
- イ 漁師という仕事を継いだことに宿命を感じており、いちずな性格で納得するまでやり抜こうとする人物
- ウ 漁師という仕事に自信をもちながら、危険と隣り合わせの恐怖を隠そうと強がっている人物
- エ 漁師という仕事に自負心をもっており、飾らない人柄で他人への思いやりがある人物

(三)

- 第二段落における有人の心情を説明したものとして適当なものを、次のアからエまでのの中から二つ選んで、そのかな符号を書きなさい。
- ア 誠の両親があれこれと世話を焼いてくれ、自然とそのペースに巻き込まれていることに戸惑いを覚えている。
- イ 誠の両親がさりげなく気を遣ってくれるおかげで、人と接することが苦手だったのにうちとけてくつろいでいる。
- ウ 誠の両親がどんどんごちそうを出してくれるが、うまく感謝の気持ちが出来ないことをもどかしく思っている。
- エ 誠の両親とのやりとりを通じて家族との生活を思い出し、東京で過ごした頃をなつかしく気持ちになっっている。
- オ 誠の両親の歓迎にわずらわしさを感じながらも、家族の一員のようにつながれることを素直に喜んでいる。

(四) 次の一文が本文から抜いてある。この一文が入る最も適当な箇所を、

あとのアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

だったら、加工を逆手に取るのはいかがでしょうかと提案したのだった。

ア 本文中の〈1〉

イ 本文中の〈2〉

ウ 本文中の〈3〉

エ 本文中の〈4〉

(五) 次のアからカは、この文章を読んだ生徒六人が、意見を述べ合った

ものである。その内容が本文に書かれていることに近いものを二つ選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア (Aさん) 第一段落から第二段落にかけて、誠の家の茶の間の様

子が描写されています。片づけられていない雑然とした部屋の様子からは、有人の訪問が本当は歓迎されていないことがわかります。

イ (Bさん) 第三段落では、有人が自分の意見を発表しています。

会話文の中で多く使われている「……」からは、有人が慎重にことばを選びながらも、自信をもつて発言している様子がわかります。

ウ (Cさん) 第四段落には、さまざまな個性をもつ生徒が出てきま

す。誠は、ディスカッションの流れを常に意識していて、話の方向を修正して適切な話題を提供できる、とても機転のきく人だと思えます。

エ (Dさん)

私は、涼先輩に着目しました。前向きな発言で周囲の雰囲気明るくする快活な人だと思います。また、自分の考えを伝えつつ、周囲にも積極的に働きかけることができる人だと思います。

オ (Eさん)

私は、ハル先輩が気になります。自分の経験にこだわって周囲を納得させようとするところはあるけれど、話題がそれていかないうちに順序立てて整理できる冷静な人だと思います。

カ (Fさん)

第五段落では、「おまえじゃなきゃ」という誠のことがを聞いて胸を高ぶらせる有人の内面が、比喻を用いて効果的に表現されています。誠のこの一言が、有人に自信を与えるきっかけになりそうです。

四 次の漢文（書き下し文）を読んで、あとの（一）から（四）までの問いに答えなさい。（本文の……の左側は現代語訳です。）

冬、晋^{しん}に饑^うう。糴^{てき}を秦^{しん}に乞^こはしむ。秦伯^{しんぱく}、子桑^{しきやう}に謂^いふ、「諸^{これ}を与^よ

不作^{ふさく}であつた 秦に（使^しを送^{おく}）米を 送^{おく}るよう願^{ねが}ひ求めさせた

言^いつた

へんか。」と。対^{たい}へて曰^{いは}はく、「重^{おも}く施^しして報^はいば、君^{きみ}、將^{まさ}た何^{なに}をか求^{もと}

お答えして、言^いう ことには

おおいに恩^{おん}恵^{けい}を施^しして晋^{しん} がその恩^{おん}に報^はいたら

何^{なに}も求^{もと}めること はないでしよう

めん。重^{おも}く施^しして報^はいずんば、其^その民^{たみ}必^{かならず}ず攜^{はな}れん。攜^{はな}れて討^うたば、衆^{しゆ}無^な

離^{はな}れる、 でしょう

くして必^{かならず}ず敗^はれん。」と。百^{ひやく}里^りに謂^いふ、「諸^{これ}を与^よへんか。」と。対^{たい}へ

て曰^{いは}はく、「天^{てん}災^{さい}の流^{りゅう}行^{かう}するは、国^{こく}家^け代^{だい}はるがはる有^あり。災^{さい}を救^{きう}ひ隣^{りん}を

恤^{あは}むは、道^{みち}なり。道^{みち}を行^いへば、福^{ふく}有^あり。」と。丕^ひ鄭^{てい}の子^こ、豹^{ひょう}、秦^{しん}に在^あ

人^{ひと}の行^いう べき道^{みち}である

り。晋^{しん}を伐^はたんことを請^こふ。秦伯^{しんぱく}曰^{いは}はく、「其^{その}の君^{きみ}是^{こゝ}れ惡^{わる}しきも、其^{その}

願^{ねが}ひ出^でた

民^{たみ}何^{なん}の罪^{つみ}かある。」と。秦^{しん}是^{こゝ}に於^おいて、粟^{ぞう}を晋^{しん}に輸^いす。

（『春秋左氏伝』による）

（注）○ 晋^{しん}、秦^{しん}ともに、春秋時代の国名。

○ 秦伯^{しんぱく}、秦^{しん}の君主^{きんしゆ}。 ○ 子桑^{しきやう}、百里^{ひやくり}、秦^{しん}の家臣^{かしん}。

○ 丕^ひ鄭^{てい}、晋^{しん}の家臣^{かしん}。晋^{しん}にむほんを起^{おこ}して殺^{ころ}された。

○ 豹^{ひょう}、父^{ちち}の丕^ひ鄭^{てい}が殺^{ころ}された後^{のち}、秦^{しん}に亡^な命^{めい}した。

○ 粟^{ぞう}、穀^{こく}物^{ぶつ}。

（一）^① 衆^{しゆ}無^なくして必^{かならず}ず敗^はれん とあるが、子桑^{しきやう}がこのように述べた理由として最も適^{ふさわ}当^{とう}なもの、次のアからエまでの中から選^{えら}んで、そのかな符号^{ごうごう}を書^かきなさい。

ア 晋^{しん}の民^{たみ}の多^{おほ}くが飢^うえ、命^{いのち}を落^おとしてしまふと考えたから。

イ 晋^{しん}の民^{たみ}が秦^{しん}の侵^{しん}攻^{こう}を恐^{おそ}れ、逃^に亡^はするに違^{ちが}ひないと考えたから。

ウ 晋^{しん}の君主^{きんしゆ}が民^{たみ}の信^{しん}頼^{らい}を失^うひ、味^{あじ}方^{はう}がいなくなると考えたから。

エ 晋^{しん}の君主^{きんしゆ}が民^{たみ}に重^{おも}税^{ぜい}を課^かし、国^{こく}中^{ちゆう}で不^ふ満^{まん}が高^{たか}まると考えたから。

（二）^② 対^{たい}へて曰^{いは}はく とあるが、百里^{ひやくり}は誰^{たれ}に對^{たい}してどのようなことを言^いつ

ているか。その説明^{せつめい}として最も適^{ふさわ}当^{とう}なものを、次のアからエまでの中から選^{えら}んで、そのかな符号^{ごうごう}を書^かきなさい。

ア 子桑^{しきやう}に對^{たい}して、秦^{しん}の民^{たみ}にこそ米^{こめ}を与^よえるべきだと言^いつてゐる。

イ 子桑^{しきやう}に對^{たい}して、秦^{しん}は晋^{しん}に恩^{おん}返^{へん}しをするべきだと言^いつてゐる。

ウ 秦伯^{しんぱく}に對^{たい}して、秦^{しん}も災^{さい}害^{がい}に備^{そな}へるべきだと言^いつてゐる。

エ 秦伯^{しんぱく}に對^{たい}して、秦^{しん}のために晋^{しん}を援^{えん}助^{じょ}するべきだと言^いつてゐる。

（三）^③ 其^{その}の君^{きみ}是^{こゝ}れ惡^{わる}しきも、其^{その}の民^{たみ}何^{なん}の罪^{つみ}かある の現代語訳として最も適^{ふさわ}当^{とう}なものを、次のアからエまでの中から選^{えら}んで、そのかな符号^{ごうごう}を書^かきなさい。

ア 晋^{しん}の君主^{きんしゆ}が惡^{わる}人^{ひと}でも、民^{たみ}には少^{すこ}しの罪^{つみ}もない

イ 晋^{しん}の君主^{きんしゆ}が惡^{わる}人^{ひと}なら、民^{たみ}もまた同^{どう}罪^{ざい}である

ウ 秦^{しん}の君主^{きんしゆ}が惡^{わる}人^{ひと}でも、民^{たみ}に罪^{つみ}を着^きせることはしない

エ 秦^{しん}の君主^{きんしゆ}が惡^{わる}人^{ひと}なら、民^{たみ}にも少^{すこ}しの罪^{つみ}はある

（四） 次のアからエまでの中から、その内容^{ないよう}がこの文章^{ぶんしょう}に書^かかれてゐることと一致^{いちじ}するものを一つ選^{えら}んで、そのかな符号^{ごうごう}を書^かきなさい。

ア 豹^{ひょう}は、父^{ちち}の恨^{うら}みを晴^{はら}らすため、不^ふ作^{さく}で苦^{くる}しんでゐる晋^{しん}に攻^{こう}め入^いつた。

イ 百里^{ひやくり}は、災^{さい}害^{がい}時^{とき}でも、国^{こく}益^{えき}を優^{ゆう}先^{せん}することが人^{ひと}の道^{みち}だと言^いつた。

ウ 子桑^{しきやう}は、晋^{しん}が必^{かならず}ず恩^{おん}を返^{へん}すので、米^{こめ}を送^{おく}るべきだと助^{すけ}言^{げん}した。

エ 秦伯^{しんぱく}は、豹^{ひょう}の願^{ねが}ひを退^{ひき}け、人^{ひと}の道^{みち}を重^{おも}んじる家臣^{かしん}の意^い見^{けん}に従^{したが}つた。

（問題^{もんだい}はこれで終^はわりです。）

令和三年学力検査 解答用紙 全日制課程 B
第一時限 国 語

一										
(六)	(四)	(三)						(一)		
二番目 () 四番目 ()	(五)	日 本 の 絵 は						(二)		

70 60

※ 一
1点 × 4
2点 × 2

二	
(二)	(一)
③	①
	げた
	②

※ 二
1点 × 3

三		
(五)	(三)	(一)
()	()	
()	()	
()	()	(二)
	(四)	

※ 三
1点 × 3
2点 × 2

四	
(三)	(一)
(四)	(二)

※ 四
1点 × 4

受検番号	第
番	得点
※	

(注) ※印欄には何も書かないこと。

四		三			二		一									
(三)	(一)	(五)	(三)	(一)	(二)	(一)	(六)	(四)	(三)							(一)
ア	ウ	へ	へ	ウ	③	①	二番目（ウ） 四番目（イ）	イ	徴	元	色	と	平	顔	日	ア
		エ	ア		が	の			を	面	面	料	本			
(四)	(二)	ゝ	ゝ	(二)	イ	と (げた)		(五)	あ	世	出	で	的	や	の	(二)
		カ	オ						る	界	す	い	な	岩	絵	
エ	エ	イ	(四)	エ		②		エ	°	で	か	か	絵	絵	は	ウ
									の	と	に	な	の	、		
									工	い	独	の	具	紙		
									夫	う	自	で	で	や		
										に	二	の	、	描	絹	
									特	次	特	線	く	に		